御車寄

御玉突所

御学問所

御座所

全景

日光田母沢御用邸は1899年(明治32)に嘉仁(よしひと)親王(大正天皇)のご静養のために造営され、1947年(昭和22)に廃止されるまでの間、三代にわたる天皇・皇太子がご利用になりました。

明治期に造営された御用邸の中でも最大規模の木造建築で、本邸が現存する唯一の建物です。江戸・明治・大正と三時代の建築様式をもつ集合建築群で、これらの建物の併用が、当初から存在したかのように建てられているところに、大きな特徴があります。

栃木県では、御用邸に刻まれた技と伝統を後世に伝えるために、各時代における建築技術を綿密に調査するとともに、それらを受け継ぐ今日の匠たちの手によって、面積が最大になった1921年(大正10)の姿を可能な限り忠実に復原しました。

利用の案内

■開園時間
○４月～10月 9:00～17:00（受付は16:00まで）
○11月～３月 9:00～16:30（受付は15:45まで）

■休園日
○毎週火曜日(その日が祝日の場合は翌日)
○年末年始(12/29～1/1)
※下記期間は無休
4/10～5/9、8/13～8/16、10/15～11/14、1/2～1/5

■入園料
○大人・高校生／600円（団体20人以上／500円）
○小・中学生　／300円（団体20人以上／250円）

■音声ガイドサービス（端末貸出し）
○200円／回（※受付時、別途保証金300円が必要です。返却時に保証金をお戻しします。）

■利用上のお願い
○所定の場所以外での飲食・喫煙はご遠慮ください。
○園内への酒類の持ち込みはご遠慮ください。
○動物(介助犬を除く)をつれての入園はご遠慮ください。
○自転車、バイクの乗り入れはご遠慮ください。
○ゴミは各自でお持ち帰りください。
○その他、ほかのお客さまの迷惑になる行為は行わないでください。
○物品の販売、募金、営業用の写真、映画の撮影は許可が必要となります。

■交通のご案内
○JR日光駅、東武日光駅より約３km
○東武日光駅より、東武バス湯元温泉行き・中禅寺温泉行き・奥細尾行き・清滝行き「日光田母沢御用邸記念公園」下車１分
○日光宇都宮道路日光Ｉ.Ｃより約3.8km
○東照宮周辺より徒歩約15分

■駐車場のご案内
○普通車　／　300円（2時間）
○大型バス／1,500円（2時間）
○二輪車　／　150円（2時間）
（大型バス5台　普通車113台駐車可）

栃木県営都市公園
日光田母沢御用邸記念公園
〒321-1434 栃木県日光市本町８-27
日光田母沢御用邸記念公園管理事務所
Tel. 0288-53-6767 Fax. 0288-53-6777
URL. http://www.park-tochigi.com/tamozawa/
田母沢　検索

2021年4月現在

国指定重要文化財 ❖ 日本の歴史公園100選

日光田母沢御用邸記念公園

NIKKO TAMOZAWA IMPERIAL VILLA MEMORIAL PARK

次代に伝える技と伝統、そして文化

謁見所

指定管理者
公益財団法人栃木県民公園福祉協会

紀州徳川家江戸中屋敷部分

日光田母沢御用邸の中核となった建物は、紀州徳川家江戸中屋敷の中心部分で、中屋敷は1872年(明治５)に皇室に献上され赤坂離宮となりました。

その後、仮皇居・東宮御所として使用されましたが、1898年(明治31)に解体され、建物の主要部分である三階建て周辺部が移築されました。そして日光田母沢御用邸では、大正天皇の御座所・御学問所(梅の間)・御寝室・御日拝所・御展望室などに使われました。

江戸中屋敷が再建されて170年以上を経過した現在でも、見事に往時の姿をとどめております。

小林家別邸部分

日光田母沢御用邸の敷地は、もと町有地と民有地でしたが、その４分の１にあたる約23,000㎡(7,000坪)を「別荘庭園田母沢園」が占め、その中に小林家別邸が建っていました。

小林家別邸は、日光出身の実業家小林年保(ねんぽ)が明治中期に建設したもので、鳴虫(なきむし)山を借景に、敷地内には田母沢川までを取り入れた広大な庭園でした。小林家別邸の建物は御用邸の一部となり、皇后(貞明)御座所・皇后御寝室・御学問所(二階)・高等女官詰所などに使用されました。

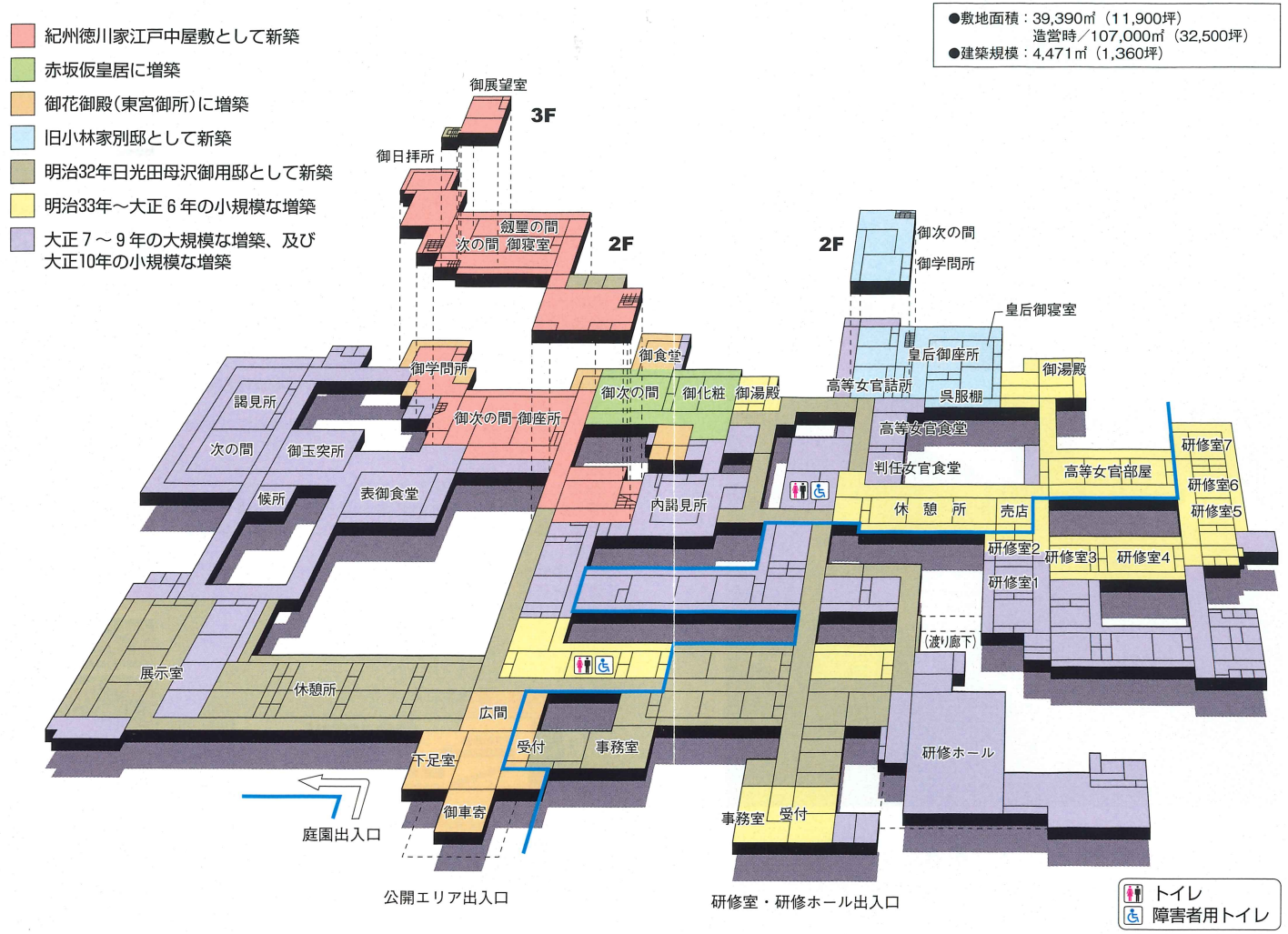
なお、上皇陛下は1944年(昭和19)の７月から約一年間、学習院初等科５年生から６年生にかけ、ここで厳しい疎開生活を送られました。

部屋数は106室

日光田母沢御用邸は、天皇・皇后がお使いになる南側の奥向きと、天皇・皇后のご生活を補佐する臣下向きに区分されており、当時の皇室の生活様式をうかがい知ることができます。

合計106の部屋は、奥向きが23室、臣下向きが83室という内訳で、天皇のご滞在に伴い大勢の補佐が必要とされたことがうかがえます。

四季折々に美しい庭園



御用邸に見る歴史と伝統

日光田母沢御用邸は、この地にあった民間住宅(小林家別邸)に、当時、赤坂離宮などに使われていた旧紀州徳川家江戸中屋敷の一部(現在の三階建て部分)を移築し、新たな部分を加えて造営されました。その後の小規模な増改築を経て、大正天皇のご即位後、1918年(大正７)から大規模な増改築が行われ、1921年(大正10)に現在の姿となりました。

その結果、江戸・明治・大正時代の最高の建築技術や、建てられた時代や用途によって異なる、いくつかの建築様式を見ることができます。

また、明治以降の多くの公共建築が石やレンガを用いた洋風様式で建築される中で、木造の利を活かした和風建築で建てられ、その後の近代建築に大きな影響を与えました。

一方、和風建築の形態でありながら、一部に絨毯やシャンデリアなどを用いた和洋折衷の生活様式が採り入れられています。明治維新以降の西洋化の中にあって、和風建築の伝統を活かしながら西洋文化との融合を図った本邸は、近代和風建築につながる貴重な資料を提供しています。

2003年(平成15)に貴重な建造物として「国の重要文化財」に指定され、2007年(平成19)には日本公園緑地協会などが制定した「日本の歴史公園100選」に選定されました。